



2004年7月19日国分川河口域で採集された雌。

いっぽう、雌のハサミの先端は朱色ではありません。腹節の朱色は雄と異なり、横に走る2本のラインとなります。

本種は、浦戸湾では流入河川の河口部に生息するようです。1975年の浦戸湾の調査報告書でも確認されていますが、当時も個体数が多かったとはけっして言えないようです。私たちの調査では、国分川の河口で採集されたのみです。



2004年7月19日国分川河口域で撮影。

WWF Japanによる1996年のレポートでは、全国的な希少種と位置付けられています。北海道から九州までと、韓国、中国に分布しますが、国内では有明海沿岸や瀬戸内海沿岸に多いとされています。とくに、有明海では近似種のアリアケガニと共存することが知られています。高知県でのアリアケガニの報告はこれまでにありません。愛媛県では瀬戸内海の沿岸から報告されていますが、同県の絶滅危惧I類に指定されています。高知県ではまだ未指定ですが、今後の消長に留意すべき種と考えられます。

2005年3月30日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）でお願いします。